

2020年度下期 助成金交付先

- | | | |
|-------|----------------|-------------|
| < 1 > | ちば醤油 株式会社 | (本社：香取市) |
| < 2 > | 株式会社 リーフ・ラボ | (本社：柏市) |
| < 3 > | 株式会社 イノビオット | (本社：千葉市中央区) |
| < 4 > | つまみかんざし彩野 | (個人事業主、松戸市) |
| < 5 > | ランフロム 株式会社 | (本社：船橋市) |
| < 6 > | 株式会社 J m e e s | (本社：松戸市) |

※ 申請受付順に記載

< 1 >

交 付 先 ちば醤油 株式会社（本社：香取市）

代 表 者 代表取締役社長 飯 田 恭 介

業 種 醤油醸造、加工調味料・漬物の製造・販売

事業・研究開発概要

【 工場跡地を活用した地域ハッピープロジェクト 】

当社は、2013 年、旭工場を閉鎖し、従業員、製造拠点を香取市本社工場に移設した。

本プロジェクトは、その工場跡地、約 1,360 坪（約 4,500 m²）の活用プラン。

当社の新事業展開を見据えたうえで、様々なプランを検討するなか、「地域を活性化したい、常に人がいる場を残したい」との思いを込め、今回の「公園機能を持ったアート広場・イベント広場としての活用」というプロジェクトの立ち上げに至った。

具体的には、壁画ペイントのほか、オブジェを設置したイベントスペースを整備し、従来の地元イベントとは一線を画したイベント・マルシェ・直売会等を実施する。

また、当地アート&クラフトの発信、アーティストの卵・起業家の卵に機会を提供するとの観点から、展示・ワークショップ施設を設ける。

そのほか、集客効果が期待でき、ビジュアル的にも綺麗なコンテナホテルを誘致する。有事の際には、ホテルを仮設宿泊所としても利用できる。

イベント広場にはカフェを開設し、当社の新規ビジネスのテストマーケティングの場とする。発酵を利用したスイーツの開発を検討しており、小資本、少人数、小スペースで開業、運営できるモデルを作っていく方針。

まず、人が集まる場所を作る、SNS等を活用して関係人口を増やす、そして、新規ビジネスの発展を図るという計画。

本プロジェクトに自治体の参画はなく、趣旨に賛同した地域の法人と個人がネットワークを構築して取り組む。



< 2 >

交 付 先 株式会社 リーフ・ラボ（本社：柏市）

代 表 者 代表取締役 丸 尾 達

業 種 野菜種子の研究および販売

事業・研究開発概要

【 人工光型植物工場を活用した高速育種 】

当社は、人工光型植物工場を活用した高速育種技術を開発し、植物工場におけるレタス栽培の重要課題である「チップバーンという生理障害の発生」を解決する品種の開発に成功した。実用レベルで高速育種技術を実践したのは世界で初めて。

高速育種技術とは、人工光型植物工場の環境（光量、温度、湿度、培養液の濃度・成分等）を自在に制御することで、最適な品種を開発する技術。この技術活用により、品種育成期間（育てて種子を採るまでの期間）を通常の4分の1以下に短縮でき、結果、品種開発の大幅コストダウンが図れる。高速育種は、遺伝子組み換えやゲノム編集技術をベースにすることなく、極めて効率的に短期間で高品質品種の育成を可能にする技術であり、世界的にも極めてユニークで、社会に広く受け入れられる技術と考えられている。

当社では、高速育種技術を活用し、植物工場向けに、生産性が高く、生産コストを低減できるレタス品種を開発（品種改良）し、種子を生産、販売する。

具体的には、顧客となる人工光型植物工場のそれぞれの異なる栽培環境に最適なレタスの品種をテラーメイド育種、あわせて、顧客が要望する品種をオーダーメイド育種し、その種子を提供していく。

今後、高速育種技術を活用、様々な環境設定において、実現象情報のフェノタイピング、ビッグデータ化を進める。また、現在は「レタス」のみを手掛けているが、原理的には同じであることから、キャベツや白菜等、あらゆる作物に対応していく計画。

本プロジェクトを通じて提供する品種により、植物工場の更なる発展に貢献していく。

※ 当社には、助成金のほか、家賃補助金（入居施設：31VENTURES KOIL）を交付。



< 3 >

交 付 先 株式会社 イノビオット（本社：千葉市中央区）

代 表 者 代表取締役 福 田 紘 也

業 種 プログラミング教室の運営、I Tサービスの企画・開発

事業・研究開発概要

【 自転車事故の新たな安全対策アプリ「P u d c l e」(パドクル) 】

本プロジェクトでは、年間8万件発生する自転車事故に関して、事故の主要因である安全不確認の防止を中心に、新たな安全対策を提供する。

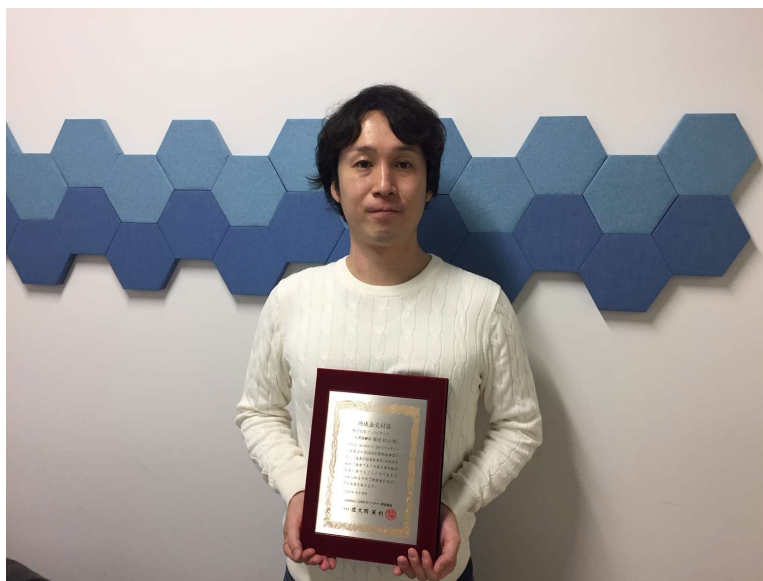
具体的には、本事業において開発する「P u d c l e」アプリを起動した状態で自転車を運転することで、運転中の考え事など注意散漫な状態で起こる急ブレーキや歩行者の飛び出しなど危険地点で油断することで起こる急ブレーキを減らす。

安全対策以外の特徴として、アプリの継続利用を促すための自転車運転者に対する安全運転度合いに応じたインセンティブ付与や、A Iアルゴリズムを活用することによる危険運転の高精度検知がある。

また、自転車運転者への安全に配慮した注意喚起の方法については、船橋市・千葉県警察本部・国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所の協力のもと、千葉工業大学との共同研究を実施、自転車運転者が楽しく利用することができるためのゲーミフィケーションの仕組みについては、千葉市・千葉大学との共同研究を実施している。

これまでの研究結果を踏まえ、2021年度に「P u d c l e」アプリの社会実装を目指す。

※ 当社には、助成金のほか、家賃補助金（入居施設：CHIBA-LABO）を交付。



< 4 >

交 付 先 つまみかんざし彩野（松戸市）

代 表 者 藤 井 彩 野（個人事業主）

業 種 つまみ細工の技術を用いた装飾品等の製造・販売・ワークショップの実施

事業・研究開発概要

【日本の装飾を巡る旅 “つまみ細工×装身具”】

つまみかんざし彩野は、千葉県指定伝統的工芸品である「江戸つまみかんざし」の技術を応用した、「①ライフスタイルアイテム」、「②日常使いのアクセサリ」、「③ワークショップのサービス」、「④オーダー髪飾り」の4つの柱で事業を展開している。

本プロジェクトでは、「⑤つまみ細工という装飾技術の可能性を打ち出したファッションアイテム」の創作と事業化を目指す。

実現可能性が高いアイデアの商品化に向けて、産学連携による「つまみ細工」の新たな可能性の模索、専門家（ファッションディレクター）との新商品・ブランディングの検討等の取り組みを実施。具体的には、つまみ細工技法の効果的な表現の考案（※1）、装飾土台の多様化（※2）、生地のはつれを活かした表現（※3）等に挑戦してきた。

※1) つまみ細工技法を18種類に整理・分類して装飾デザインを考案。

※2) 厚紙以外の柔らかい土台（古い着物や着物の帯）への装飾。

※3) 生地のはつれはタブーとされてきた。

今後、これら取り組みのなかで開発したアイテムを、日本の伝統芸能（能・舞踊・祭礼・神楽事等）と融合させた訴求力の高いインスタレーション（※4）によって、メディア向けに発信し、新市場であるファッション業界や、30代から40代の男性にアプローチしていく計画。

※4) 日本の祭礼をテーマに、「つまみ細工」を施した祭り装束や祭礼画像の展示・音楽等を使用することで、親和性の高い「和」や「日本文化」、「ハレ（非日常）」、また、古布をリユース（再利用）する観点から、「サステナブル」などをテーマにしたファッションブランドの企画、コラボレーションを検討中。あわせて、安全性を考慮し、VR（バーチャルリアリティ）空間での展覧会も検討している。



< 5 >

交 付 先 ランフロム 株式会社（本社：船橋市）

代 表 者 代表取締役社長 嶋 田 稔

業 種 学習塾

事業・研究開発概要

【 「オシエテ. m e」 （インターネットプラットフォーム事業） 】

当社は、開校済 12 校舎（予定含め 14 校舎）、在籍生徒数約 800 名の学習塾。

新型コロナウイルス感染症により、学習塾ビジネスが、従来の教室における「対面指導」と「オンライン授業」のハイブリッド型に変化するなか、当社は、現状のオンライン授業には多くの改善余地があると認識。

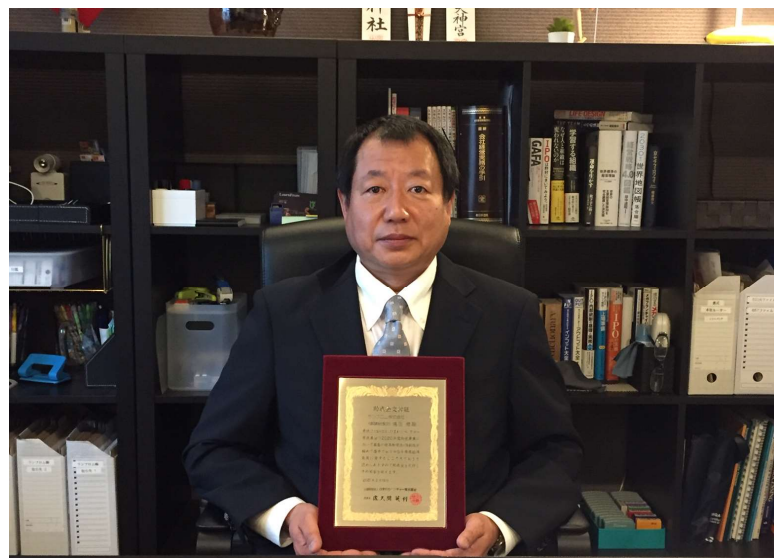
こうしたなか、当社は「オシエテ. m e」というサービス名称で、新しいオンライン授業のプロジェクト（インターネットで、学習塾の講師の時間帯を 1 時間単位で販売するプロジェクト）を開始した。

具体的には、従来、アナログで時間をかけて行っていた生徒と講師のマッチングについて、サービス利用者が講師を検索して選択できるかたちにするほか、オンライン授業提供後に、クレジットカードによる代金決済から、講師への報酬支払いまで、インターネットプラットフォーム上で一元管理することを可能にする。現時点で存在しない新規のプロジェクト。

スマートフォンのアプリを使用、写真や出身大学・学部・資格保有状況等から講師を検索・選択し、好きな時間に 1 時間からオンライン授業を受けられるようになるため、生徒や保護者にとっては、これまでの塾や家庭教師派遣にはない新規性・メリットがある。

一方、新型コロナウイルス感染症で、対面授業が減少した講師陣の収入源としての利用も期待されている。

早期開発・早期サービスインで、千葉県から全国へ展開していく方針。



< 6 >

交 付 先 株式会社 J m e e s （本社：松戸市）

代 表 者 代表取締役 松 崎 博 貴

業 種 情報業、医療機器類の研究開発

事業・研究開発概要

【 解剖構造可視化A I システムの開発 ～熟練の眼を全ての外科医に～ 】

当社は、国立がん研究センター東病院発のベンチャー企業で、人工知能（A I）を用いた手術支援システムの開発を手掛ける。

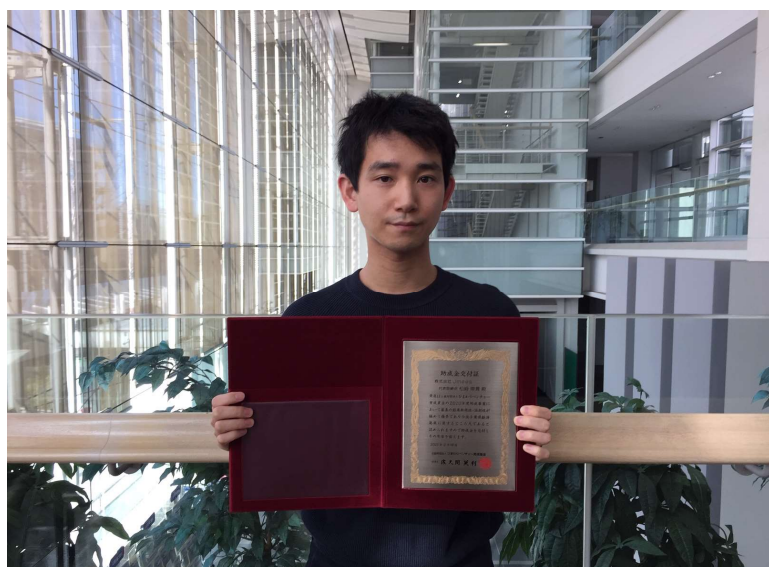
外科手術中における他臓器損傷は、患者Q O L（quality of life）の低下や医療コストの大幅な増大をもたらす。そして、他臓器を損傷してしまう最大要因としては、解剖構造の確認不足や誤認が指摘されている。

こうしたなか、本プロジェクトでは、「見えにくい解剖構造」や「経験を積んだ外科医でないと認識困難な解剖構造」を可視化することで、執刀医をサポート、術中偶発症を防ぎ、手術現場に安全な医療をもたらすことを目指す。

開発する手術支援システムは、入出力端子を有するコンソールで構成されており、腹腔鏡カメラ映像信号を入力として受け、コンソール内のG P Uにて予測モデルによる演算を行い、認識結果を元映像にオーバーレイして出力し、モニターに表示する。この映像を見ながら執刀医が手術を進めることで、熟練外科医による解剖構造認識が共有された状況をリアルタイムで作り出すことが可能となり、情報支援による外科手術の安全性向上・均質化が図れることとなる。

第1世代プロダクトとして、臨床ニーズと市場性の高い腹腔鏡手術における臓器損傷を対象に、手術動画データの収集と教師データ作成を行い、深層学習による臓器自動認識システムのプロトタイプを開発。臨床研究によるコンセプトの検証結果を踏まえ、ソフト／ハードの製品設計・開発、薬事承認取得を目指す。さらに、第2世代・第3世代として、対象臓器・術式を拡大し、継続的・発展的な市場導入を図っていく予定。

※ 当社には、助成金のほか、家賃補助金（入居施設：東葛テクノプラザ）を交付。



<スナップ写真>



(左から)

ちば醤油 株式会社

飯田社長

ひまわりベンチャー育成基金

田中常務理事



株式会社 リーフ・ラボ

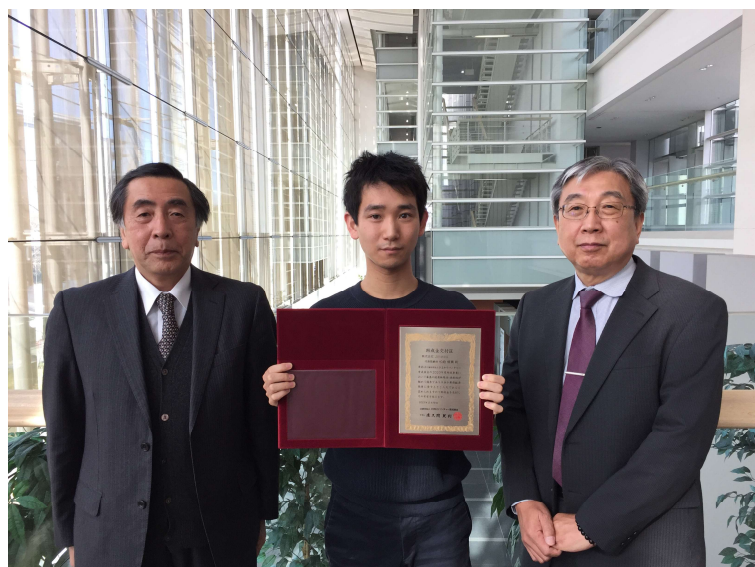
丸尾社長（前列右）

山口取締役（前列左）と

同社社員の皆さま



ランフロム 株式会社 嶋田社長（前列中央）と
同社役員の皆さま



（左から）
東葛テクノプラザ 森所長
株式会社 J m e e s 松崎社長
東葛テクノプラザ 鮎沢インキュベーションマネージャー